

令和6年度 手話言語条例推進方針等に係る懇話会 会議録

- 1 日時 令和6年12月12日（木） 午前10時～正午
2 場所 京都市聴覚言語障害センター（2階 研修室）
3 出席委員 高井座長、柴田委員（座長職務代理者）、阿野委員、石神委員、戌亥委員、上田委員、栗林委員、櫻井委員、高山委員、竹本委員、谷淵委員、藤岡委員、星田委員
欠席委員 國重委員、齊藤委員、早川委員、兵庫委員
事務局 保健福祉局障害保健福祉推進室
阪本室長、遠藤企画・社会参加推進課長、相川社会参加推進係長、鍵田係員

4 次第

- (1) 開会
- (2) 自己紹介
- (3) 議題
 - ・ 京都市手話言語がつなぐ心豊かな共生社会を目指す条例に基づく手話に関する施策の推進方針の改定について
- (4) 閉会

（事務局より議題について説明の後、意見交換）

高井座長 今説明いただいた内容に質問や意見等ございましたら、積極的にお願いします。

柴田委員 議題資料の新規実施に記載されている「幅広い団体等が連携した手話の認知度向上プロジェクトチーム」の具体的なイメージを聞かせてほしい。

事務局 懇話会に参画いただいている団体以外の、例えば手話サークルや大学生、ボランティア等も念頭に置いたチームを想定している。人選については今後検討するため、個別に相談もしていきたい。従来つながりがなかった団体等ともつながりを作る狙いも込めている。

有志チームについては、当初は本市内の手話自主研修を受講している市職員を考えていたが、SNSの発信等、得意な方を巻き込みたいという意図で、他団体の方も含めて、比較的若手の方で結成できればと思っている。

高山委員 参考資料1（1）手話に対する理解の促進及び手話の普及に関すること「②ホームページ、リーフレット、マスメディア等を活用した手話に対する理解の促進」について、手話言語条例が制定されてから8年くらい経っているのも、今の時代に合ったものにリニューアルされたらどうかなと思う。実績としては継続になっているが、継続しているといえるのか。私たち協会の責任もあるが、市民の方への啓発は普及していないと感じる。ホームページも活用できるのではないかな。

事務局 ご指摘のとおり、状況の変化を踏まえたアップデートはしていく必要がある。新規事業でのプロジェクトチームを活用して一般の意見も聞くなどして、更新していきたい。リーフレットについては費用面の問題もあるが、ホームページについては予算の課題はなく、検討したい。

高山委員 次回3月の懇話会までに実現可能か。

事務局 今年度予算を確保しているわけではなく、3月までということは確約できない。更新するのであれば、しっかりと議論をして内容を検討すべきと考える、プロジェクトチームの活用はそのための案でもある。

高山委員 承知した。努力をお願いしたい。

柴田委員 京都市のホームページで手話がついているのは市長の記者会見だけである。字幕だけでも読み取れるが、手話と合わせることでより伝わるものであり、いかに量を増やすかが大事かと思うので、ぜひ検討いただきたい。来年のデフリンピックの紹介や、手話言語法の動きについて手話を取り入れて市民に紹介いただきたい。

事務局 時事を取り入れることは注目を集めるうえでも必要なことであり、検討したい。

星田委員 ホームページについては、どんどん活用してほしい。例えば、ホームページにある京都市情報館のトップページのところで、手話国際デーのアピールをするなどはどうか。手話通訳問題研究会としても協力できるので、相談してもらえたらと思う。

事務局 情報発信の中身については今後検討していきたい。

高山委員 松井市長が手話をされたらいいと思う。門川市長は手話に関心を持っていたし、市長が手話をされると注目を浴びるのではないか。

事務局 松井市長も「すべての人に居場所と出番のある社会」の実現を推し進める方針であり、そこには当然だが障害のある人も含まれる。情報発信を担ってもらうことは考えられる。

谷淵委員 確認だが、参考資料１（１）手話に対する理解の促進及び手話の普及に関すること③市民等が手話を学習する機会の提供「初めて本格的に手話を学習する市民向けの手話体験の講座を開催する」の実績について、各区社協でも行っているが実績に含まれているのか。

事務局 現状は市が実施しているものの実績になっているが、広く把握しておきたいと考えるので、実績等をまたお聞きしたい。

谷淵委員 承知した。

高井座長 参考資料１で「継続」とあるがそれについて具体的な実施状況はどうなっているか。例えば、ビデオの作成や資料の印刷はお金がかかると思うが、実際に活用しているのか。その辺りの実態が知りたい。

事務局 まだ年度の途中であるため、本日の資料では実績を記載していない。次回３月の懇話会では実績を書きたいと考えている。

高山委員 講師派遣センターで依頼いただいて講師として学校に派遣しているが、教育委員会の関係のビデオ教材は私たちでは中身が見られない。先生はビデオ教材をどこまで理解されているのか、実際に行ってみると温度差を感じることもある。教育委員会にビデオを貸していただき、中身を確認したうえで、協会として対応していきたい。

事務局 確認する。

柴田委員 ２点取り組んでほしいことがある。参考資料１（２）手話により情報を取得する機会の拡大に関すること②市や市会における手話での情報取得等の機会の拡大「避難所等において、当事者が手話により情報を獲得し、意思疎通を図れる仕組みの整備に向けた検討を進める。」については、能登半島地震で明らかになったとおり、まさに待ったなしの課題である。

第3期では「検討」ではなく、強い書き方をしていただけないか。能登では、当事者支援団体が、手話による情報発信をYouTube 動画配信されており、聴覚障害者が重宝したと聞いている。そのため、京都市独自だけでなく、聴覚言語障害センター等が広く関わるのがよいのではないか。

もう1点は、参考資料1(3)手話の獲得及び習得の支援並びにコミュニケーションの手段として手話を選択しやすい環境の整備に関する②当事者およびその家族等の手話獲得及び習得に関する支援の推進「学生や市民の手話ボランティア（軽易な内容についての通訳や、手話を学びたい当事者やその家族等への手話の習得支援を行う。）による支援のコーディネートについて検討する。」について、京都市は長く通訳者の養成を続けているが、通訳者の年齢層が高く若年層が少ないため、そうした層にも働きかける必要がある。例えば、龍谷大学で手話の講座があり、2年間という短期間で検定受験までつなげるため、効果的である。

高山委員 柴田委員の話は深刻な問題で、災害ネットワークについて佛教大学の後藤先生に協力いただき、お話をお伺いしたことがある。南海トラフのこともあるので、一日も早く避難所について取組が遅れないように来年度には詰めていただきたい。

事務局 避難所に関しては課題と認識しており、防災危機管理室との継続協議や調整が必要ではあるが、それ以外に、動画の配信等こちらで独自にできることもあると考えている。手話通訳者の確保については、一部の方に需要が偏りがちとも聞いており、すそ野を拡大していくことは重要であると考えている。ドラマ等で取り上げられると養成講座の受講者が増えるという話もあり、行政側の発信だけで効率的に増やすことは難しい面もあるが、検討したい。

星田委員 子どもの頃から身近に手話を目にしておくことが大切である。手話通訳者は有償ボランティアという思想が根強い。子どもたちが、将来なりたい仕事の選択肢の一つに、手話通訳士を入れてもらえたらうれしい。そのためにも大学でしっかりと手話を学べたらよいと思う。

石神委員 新規事業でプロジェクトチームの話が出たが、みみずくにはホームページがあり、それをみて入会される方が何人かいる。SNSを活用するなどの情報発信は有効になってくるので、積極的に活用してもらいたい。市社協の谷淵委員が言われたような既存の取組もふくめて、情報を集め、発信できればよいと思う。

事務局 既存のものについて把握し、集約して発信することで、ある程度効果的な情報発信となる面もある。まずは既存のものの把握から始めていきたい。

上田委員 避難所の話になるが、聴覚障害は見た目でわからない。他の自治体では防災バンダナというものがある。常備しておけば聴覚障害者を助けられることがある。防災バンダナは三角巾にもできるし、いろいろ使えるので考えていただければと思う。

事務局 ぜひ参考にさせていただければと思う。

阿野委員 中難協では難聴者のコミュニケーション講座をやっているが、いつも平日の昼間の時間帯の講座で、それでは高齢者しか集まらない。できれば働いている方でも参加できるような土日にも開催いただきたい。

高山委員 柴田委員からも話があったように、来年デフリンピックが東京で開催されるので、国際手話教室を京都市でやってもらいたい。世界からろう者たちが来られるので、コミュニケーションが円滑にできれば、それぞれの国に京都の良い印象を広めることができるのではないか。

事務局 観光 MICE 推進室にデフリンピック関連の情報がないか確認してみたい。業種別研修において、今年度は保育士と民生委員を対象に実施し、好評をいただいているので、来年度の対象業種を検討する際考慮したい。

竹本委員 手話を広げることについてお願いしたいことがある。本校でも手話を使う生徒がいるが、手話だけでは読み解くこともできない子もいるため、動画の中に手話通訳者を入れるだけでなく、字幕もいれていただきたい。手話の関心を広げることにもつながる。先ほど話題に上がった、避難所における情報発信でも、文字情報があるとありがたいと感じる方が多いはずである。

事務局 YouTube であれば、精度はともかく自動で字幕を作成する機能があると聞くので、作成する場合には活用出来たらと思う。

栗林委員 小学生に聴覚障害の体験してもらう機会があり、「聞こえない方に対して、どう伝えたらいいか」と聞いたら要約筆記と手話と答えてくれ、先生も名前を指文字でやってくれた。絵本で知っていたとのことだった。若い人にも裾野が広がっていると感じた、うれしいエピソードとして紹介させていただく。

高井座長 現代では 75 歳の 8 割が難聴である。私自身は片耳が全く聞こえないので状況によっては手話や文字が大事になる。そのため第 3 期では、対面でも向き合って伝える気持ちから大切になると感じる。

柴田委員 質問だが、3 月に開かれる懇話会では参考資料 4「第 2 期推進方針」のような形で、第 3 期の案が示されるのか。

事務局 そのとおりである。

星田委員 聞こえない方と、飲食店の話をしていた際に、「店主と話さないといけないからカウンターのお店には行けない」と言っていた。店主と話しながら食べるのが楽しいのに、それを聞いてショックを受けた。だからこそ、例えば「いらっしやいませ」と手話してくれるだけでも、行きやすくなるのではないかと思う。

阿野委員 KBS 京都では、手話通訳者がついているが字幕がない。他のローカル局では字幕がついていることもある。なぜないのか知りたい。

事務局 KBS に確認する。

高井座長 後日お気づきの点があれば、事務局へ連絡いただきたい。本日は円滑な意見交換ありがとうございました。

事務局 本日は多くの意見ありがとうございました。資料の送付が遅くなり申し訳ありませんでした。今回のご意見を受けて、3 月頃開催予定の懇話会にて修正案をお示ししたい。本日は誠にありがとうございました。